

第1号

豊平地区 学校配置検討委員会ニュース

発行
2023年3月17日

豊平地区学校配置検討委員会事務局
(札幌市教育委員会生涯学習部学校施設課学校規模適正化担当)

札幌市では、少子化の影響により、児童生徒数の減少とともに1校あたりの学級数が減少する「学校の小規模化」が進んでいます。

「学校配置検討委員会」とは、地域・保護者・学校関係者の代表者で構成され、学校の小規模化により生じる課題を整理し、課題解決のための方策について、行政と連携を図りながら検討していく場です。

1. 「学校配置検討委員会」設立の背景と目的

旭小学校は、増加する豊平小学校の児童数に対応するために、豊平小学校の通学区域を再編し、1955年度(昭和30年度)に開校した学校です。

旭小学校は、1958年度(昭和33年度)に児童数1,332人(24学級)となりピークを迎えましたが、その後の少子化の影響により児童数が減少傾向にあり、「学校の小規模化」が進んでいます。

こうした状況を踏まえ、豊平地区に「学校配置検討委員会」を設置し、現在、そして未来を担う子どもたちにより良い教育環境を提供するために検討を行うことにしました。

検討委員会の開催状況については、「学校配置検討委員会ニュース」により皆様にお知らせしますので、ぜひ多くのご意見をお寄せください。

2. 旭小学校と豊平小学校の概要

(2022年5月1日現在)

学校名	旭小学校	豊平小学校
所在地	豊平区水車町3丁目1番22号	豊平区豊平5条7丁目1番2号
児童数/学級数	220人/9学級	358人/12学級
特別支援学級	情緒11人/2学級 知的3人/1学級	情緒8人/1学級 知的11人/2学級
開校年次	1955年(昭和30年)	1881年(明治14年)
教職員数	23人	26人
校舎・屋内運動場建築年	1981年(昭和56年)	1978年(昭和53年)
敷地面積	14,088m ²	11,900m ²

3. 「学校規模適正化」について

札幌市教育委員会では、学校が小規模化することで生じる課題に対応するために、保護者、有識者、公募委員などで構成される「札幌市立小中学校適正配置検討懇談会」の答申に基づき、2007年12月に「札幌市立小中学校の学校規模の適正化に関する基本方針」を策定し、対象となる地区や学校を予め選定の上、学校規模適正化の取組を進めてきました。

その後、札幌市の児童生徒数はさらに減少し、今後も増加が見込まれる小規模校に適應できるよう「札幌市立小中学校適正配置審議会」からの答申を踏まえて2018年4月に基本方針を見直し、全ての小規模校を対象に学校規模適正化の取組を進めるとともに、札幌市の考え方である「公共施設の長寿命化、複合化による地域コミュニティの再構築」も踏まえ、施設面からも学校規模適正化による教育効果の発揮を図ることとしました。

(1) 小規模校のメリットと課題

小規模校のメリット

- ▶一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を把握しやすい。
- ▶意見や感想を発表できる機会が多くなる。
- ▶異年齢の学習活動を組みやすく、校外学習などを機動的に行いやすい。
- ▶グラウンドや体育館、特別教室などが余裕をもって使える。

など

小規模校の課題

- ▶クラス替えが困難となり、人間関係が固定化し集団活動の機会が限られる。
- ▶運動会や学習発表会などの学校行事において、種目や演目が限られる。
- ▶様々な価値観への出会い、社会性や協調性、コミュニケーション能力を伸ばす機会が限られる。
- ▶学校行事において、児童生徒の安全、安心の確保や円滑な運営に必要な体制を整備すにくい。

など

(2) 適正な学校規模

小学校

18～24学級(1学年3～4学級)

※ 少なくとも12学級以上(1学年2学級以上)

中学校

12～18学級(1学年4～6学級)

※ 少なくとも6学級以上(1学年2学級以上)



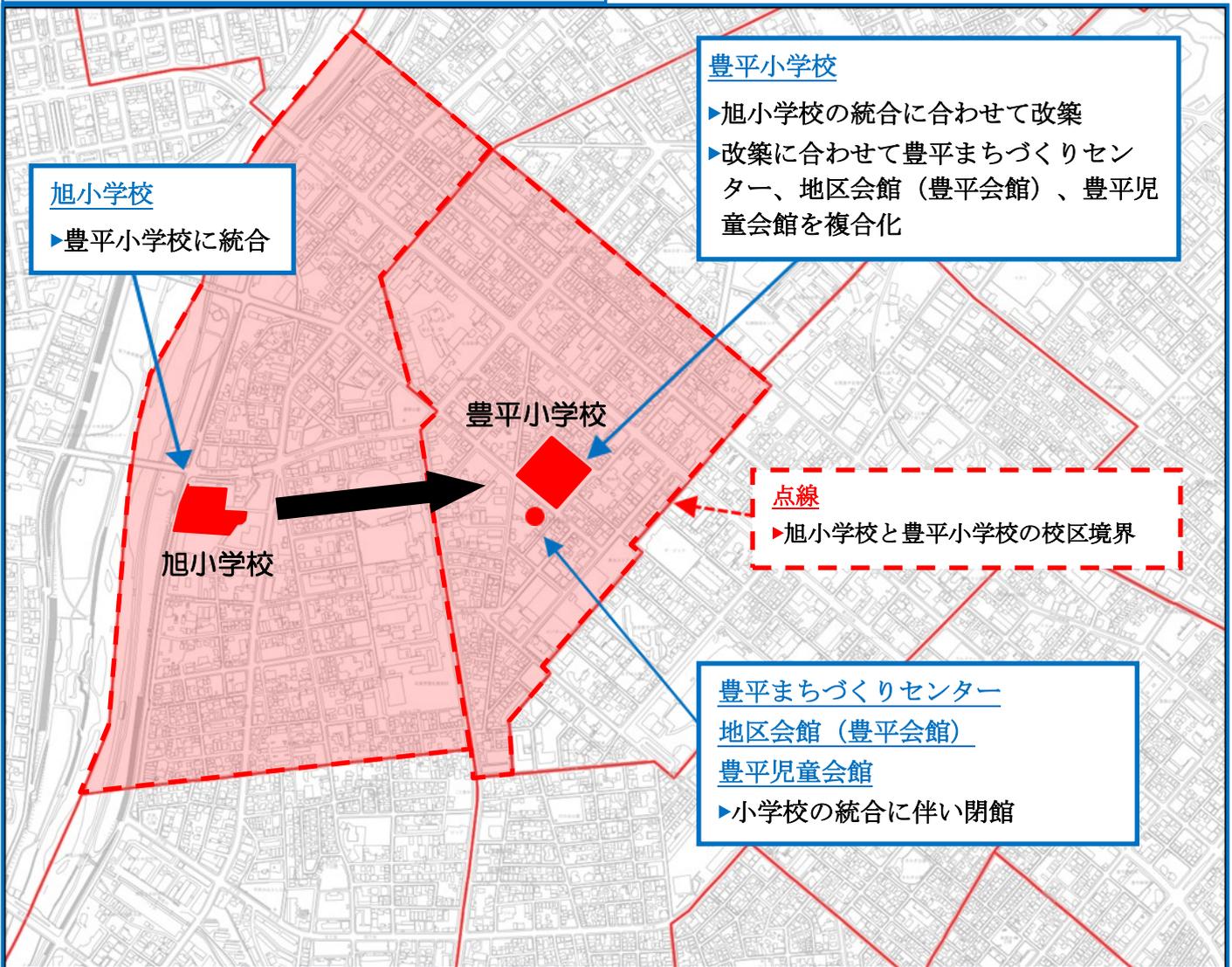
小学校は12学級未満、中学校は6学級未満の学校のことを「小規模校」としています。

4. 豊平地区における取組案

札幌市と教育委員会では、「学校配置検討委員会」（以下、「検討委員会」）で協議を進めるためのたたき台となる「取組案」を作成し、第1回検討委員会で提示しました。

「取組案」は1つの案であり決定事項ではありません

旭小学校と豊平小学校を中心とした取組案の図



(1) 小学校の統合

- ▶小規模化により生じる課題を解消するために、旭小学校を豊平小学校に統合します。
(豊平小学校の敷地を活用する想定)

参考：児童数学級数の推計(2022年5月1日現在)

(単位・・・児童数：人 / 学級数：学級)

	2022		2023		2024		2025		2026		2027		2028	
	児童数	学級数												
旭小	220	9	216	9	214	9	206	9	186	8	177	8	175	8
豊平小	358	12	362	12	364	12	346	12	345	12	335	12	332	12

(2) 学校施設の整備

- ▶統合に合わせて老朽化している豊平小学校を改築します。

(3) 公共施設の複合化

- ▶豊平小学校の改築に合わせて、小学校に「まちづくりセンター」、「地区会館」、「児童会館」を併設（複合化）

まちづくりセンター及び地区会館400㎡ + 児童会館300㎡ + 多目的ホール150㎡
(一般利用可)

※複合化に伴い旭小学校ミニ児童会館、豊平児童会館は閉館

(4) 旭小学校跡地の活用

- ▶公共利用の有無を札幌市で検討します。
- ▶公共利用が見込める場合は、市有施設として再活用します。
- ▶公共利用が見込めない場合は、地域ニーズを踏まえた条件付きで民間事業者への売却を検討します。

(5) 豊平まちづくりセンター、地区会館(豊平会館)、豊平児童会館の跡地の活用

- ▶公共利用の有無を札幌市で検討します。
- ▶公共利用が見込める場合は、市有施設として再活用します。
- ▶公共利用が見込めない場合は、売却を検討します。

コミュニティ機能としての活用を希望する場合は、地域による自主運営を条件に、建物を市民集会施設として利用することも可能です。この場合、建物は不動産鑑定評価額で譲渡し、土地は有償貸付となります。

5. 第1回学校配置検討委員会について

1回目の検討委員会では、代表委員の選出や検討委員会の運営方法の決定、事務局からの「取組案」説明、「取組案」に関する意見交換、委員から市・教育委員会職員への質疑応答を行いました。

(1) 開催概要

- ▶会議名 第1回 豊平地区 学校配置検討委員会
- ▶開催日時 2023年(令和5年)2月9日木曜日 16時00分～17時30分
- ▶開催場所 豊平会館(豊平区豊平6条7丁目1番12号)
- ▶構成委員 関係連合町内会と関係小学校PTAから推薦された者及び関係校校長
※8ページに委員名簿を掲載しています。

【札幌市・教育委員会からの参加】

危機管理局、まちづくり政策局、財政局、市民文化局、子ども未来局、教育委員会の関係課職員

(2) 検討委員会の運営方法の決定

- ▶代表委員には、豊平地区町内会連合会会長の中川昭一氏を選出しました。
- ▶検討委員会の「公開・非公開」について協議し、自由で活発な議論を行うために「非公開」としました。
- ▶検討委員会の開催状況については、「検討委員会ニュース」を作成し、学校から保護者世帯への配付、旭小学校と豊平小学校の校区内全世帯にポスティング、教育委員会ホームページに掲載することで、地域の皆様に周知することとしました。
- ▶保護者や地域の皆様からのご意見やご要望については、「検討委員会ニュース」により募集し、お寄せいただいたご意見等については、事務局(教育委員会)で受け付けて、次回検討委員会で報告することとしました。

(3) 「取組案」に対する意見・質疑応答の概要

- ▶委員からの意見や質問、札幌市・教育委員会職員からの回答などについて、以下、概要を掲載しています。

※類似の発言内容をまとめるなど文言を整理して掲載しています。

※「○」・・・委員からの意見、質問等

※「⇒」・・・代表委員や札幌市・教育委員会職員の説明、回答

<学校規模適正化の取組について>

○世界では小規模校が主流となっているので、人口動態に合わせた学校規模の基準に見直してほしい。

○旭小学校区から豊平小学校まで、通学距離は最長で何kmあるか。また、北海学園大学敷地内を通学路に指定できるか。

⇒ (教育委員会学校規模適正化担当課)

- ・旭小学校区の中で、学校まで一番距離が長いと思われる南西端と北端からは、どちらも1.8kmほどあり、大人の徒歩で25分ほどかかります。
- ・北海学園大学敷地内の通行については、時間は限られていますが、一般通行は認められています。
- ・しかし、通学路の道路条件は①公道であること、②歩車道の区別があることが必要です。
- ・北海学園大学の敷地を通学路に設定あるいは児童が登下校で通行することについては、今後の検討事項にしたいと思います。

○北海学園大学敷地内を通学路に指定できなかった場合、遠回りすることとなり、特に1年生の通学の負担が大きくなるように思える。

○教育委員会としては、都市部における複式学級はどう考えているか。

○関東の小学校では、試験的に複式学級が導入されており、その結果、メリットがあることが分かっているようだ。旭小学校が将来的にさらに小規模化するのであれば、複式学級にした方が、メリットはあるのではないか。

<複式学級について>

小学校や中学校で、1年生と2年生の在学者で構成された学級のように、2以上の学年の在学者で構成されている学級

⇒（教育委員会学校規模適正化担当課）

- ・教育委員会としては、クラス替えができない教育環境に課題を感じています。
- ・複式学級に対する教育委員会の考えは、次回の検討委員会でお伝えします。

- コロナ禍において、小規模校にデメリットを感じていない。少人数であれば、学校生活をのびのびと送ることができる。
- 1学年3～4学級ある学校と、1～2学級の学校のどちらが良いかは、経験なしには一概に言えない。
- 教育委員会の提案する統合案は、子どもたちのためではなく、施設の老朽化と教員数の確保のための取組のように感じる。
- ウィズコロナの時代を見据えた適正規模を再検討してほしい。
- 市内小学校の中で学校規模に差がある。小規模校への取組よりも、大規模校に通っている子どもがのびのびと生活できるような教育環境を整える取組の方が重要ではないか。

⇒（教育委員会学校規模適正化担当課）

- ・コロナ禍においては、学校規模に関係なく、どの学校も感染対策に取り組んでいます。
- ・学校規模適正化の取組は、施設の老朽化や教員数対策が目的ではなく、子どもたちの教育環境を整えるための取組です。

- 教育委員会としては、小規模校が悪いという考えなのか。
- 小規模校では、先生と子どもが密接に関わることができる。教育環境としては小規模校の方が良いのではないか。

⇒（回答：教育委員会学校規模適正化担当課）

- ・小規模校が必ずしも悪いというわけではありません。
- ・学校規模適正化の取組は、子どもたちの人間関係を広げる機会を増やすことも取組目的の一つです。

- 特別支援学級の子どものことを考える必要もある。
- 統合ありきで考えないでほしい。旭小学校を存続させる方向で考えていきたい。
- 旭小学校と町内会が協力して地域のお祭り等の行事を開催してきた。旭小学校が閉校になると、町内会自体が廃れ、地域コミュニティの衰退につながる。学校統合のことだけでなく、地域コミュニティのことも取組の中の一つの柱として考えてほしい。
- 個人的には、子どもの数は多い方が良いと思っている。
- 校区再編を行うと地域コミュニティが崩れてしまう恐れがある。

<避難所について>

- 旭小学校は水害時の避難所に指定されていないが、その他の災害時の避難所として、地域のよりどころとなっている。旭小学校が統合となるならば、代替措置として、水車町地区の高台に避難所を設置することはできないか。

⇒（危機管理局防災推進担当課）

- ・基幹避難所は、「札幌市避難場所基本計画」に基づき、歩行距離 2 km 圏内の範囲で設置しています。
- ・旭小学校が豊平小学校に統合された場合、旭小学校区にお住まいの方は、歩行距離 2 km 圏内にある基幹避難所（近隣の小学校・中学校）に避難していただくことになります。
- ・「避難指示」＝「避難所に逃げる」ではなく、「安全な場所に避難してください」という意味であるため、自宅が安全な場所であれば自宅で待機していただくことも選択肢の一つとなります。
- ・また、資料 2 の中で「旭小学校の跡地に避難所機能のある施設を建てることになった場合、洪水災害に対応できるように、1 階を吹き抜けにした避難所がほしい。」という地域からの要望がありましたが、洪水時は、豊平川の河岸浸食（地面の削られる）の恐れがあるので、1 階を吹き抜けにしたとしても、水害時の避難所として使用することはできません。

(4) 次回の検討委員会について

- ▶ 会議名 第2回 豊平地区 学校配置検討委員会
- ▶ 開催日時 2023年(令和5年)6月8日木曜日 16時00分～17時30分
- ▶ 開催場所 豊平会館(豊平区豊平6条7丁目1番12号)

次回(第2回)検討委員会の議題(予定)

- ・ 第1回検討委員会の振り返り
- ・ 地域や保護者の皆様から寄せられたご意見等の紹介
- ・ 小規模化する小学校で生じる課題の整理と解決するための方法

ご意見、ご質問は、下記事務局までお寄せください。

豊平地区 学校配置検討委員会事務局

- ▶ 札幌市教育委員会生涯学習部学校施設課(学校規模適正化担当)
- ▶ 電話: 011-211-3836 FAX: 011-211-3837
- ▶ Mail: gakkokibo@city.sapporo.jp

検討委員会の開催概要は札幌市教育委員会のホームページにも掲載しています。

<https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/toyohira.html>



さっぽろ市
02-S01-22-2717
R4-2-1691
SAPPORO